



市民がもえた！
見物客がわいた！！

白石市民 春まつり

白石市民



③太鼓山車

山車に乗った子供たちは、京都の流れをくむといわれる白石織子に合わせ、毎晩練習してきた成果を披露しました。



①神明社神輿渡御

厄年(後厄)にあたる昭和32・33年生まれの男性が、今年の担ぎ手です。



②稚児行列

武者姿の男の子、女の子が、紅白の帯を引きながら山車を先導しました。



④子供みこし・大人みこし

重いみこしを担ぎ、うちわであおがれながら、春の訪れの喜びを全身で表現しました。

米俵相撲大会



女性と小学生だけが参加可能な大会で、米俵を土俵内から出すタイムレース。今年も昨年同様にたくさんの飛び入り参加者があり、楽しいまつりの雰囲気を感じました。



人間ばん馬大会

1チーム5人編成のチーム対抗競技で、1人が馬そりに乗り、それを残りの4人で引くタイムレース。それを超えたいという重さに悪戦苦闘し、途中で進めなくなるチームもありましたが、歯を食いしばりながらゴールを目指した参加者に、盛んな拍手が送られました。

恒例の白石市民春まつりが五月三日に行われました。市内の自治会など二十団体から約二千人が参加して行われた大パレードは、神明社神輿渡御を先頭に、甲冑行列、稚児行列、太鼓山車、子供みこし、そして大人みこしの順で市内を練り歩きました。また、昨年からは始まった「人間ばん馬大会」と「米俵相撲大会」が開催されたほか、エキパルロードでの白石城下商いまつりや、フリーマーケット広場では手作りの露店が立ち並び、さまざまな催しが繰り広げられ、大勢の見物客で一日中賑わいました。

ほほえみの年輪をかさねて

第42回

全日本こけしコンクール



内閣総理大臣賞を受賞した牧野さん (5月8日、キューブ)



内閣総理大臣賞受賞作品
作品名「慈愛」 牧野 均さん作

「聖母マリアを連想させる、大変美しく優しい雰囲気を感じられる清純さが漂い、ほのぼのとした安らぎを与えてくれる作品である。」と評価されての受賞となりました。

全国のこけし工人たちが技を競う「第四十二回全日本こけしコンクール」は、全国二百五十人から千十名のこけし、木地玩具、応用木工品などを集めて、キューブを会場に五月三日から五日まで行われました。注目の内閣総理大臣賞には、山形県川西町の牧野均さんの創作こけし選ばれました。また、併設イベントとして、各地の工人による実演・販売をはじめ、新エネルギー展、地場産品まつり、第二回こけしの写真コンクールなど多彩な催しが行われ、三日間の入場者は八万人に上りました。

おめでとございます

市内在住の受賞者(敬称略)

- 通商産業大臣賞 高橋 達郎
- 農林水産大臣賞 薄 光伸
- 運輸大臣賞 高橋とし子
- 文部大臣奨励賞 柴田 栄子
- 文部大臣奨励賞 鎌田 孝志
- 林野庁長官賞 佐々木美穂
- 通商産業省生活産業局長賞 佐々木ひろえ
- 宮城県知事賞 加賀沼勝子
- 青森県知事賞 鎌田うめ子
- 米沢市長賞 國分 栄一
- (財)日本産業デザイン振興会長賞 加賀沼昌行
- 河北新報社賞 佐藤 慶明
- 朝日新聞社賞 佐藤 英雄
- 読売新聞社賞 新山 吉紀
- 東北放送賞 新山 学
- 東日本放送賞 佐々木 功
- 白石商工会議所会頭賞 佐々木克己
- 白石市観光協会会長賞 佐藤 幸一



「ずらりと並んだ入賞作品64点。力作こけしの勢ぞろい。」



「常時1万点が展示された即売コーナーは大盛況。初日から多くのこけしファンが、お目当ての工人の作品を次々と買い求めていました。」



「第2回こけしの写真コンクールで、特選に選ばれた小野和久さん(仙台市太白区)の作品「コケシ大好き」」

牧野 均氏 謝辞(要旨)
私は全日本こけしコンクールに毎年特別な思いで臨んでいます。それは、こけし作りの道に入るきっかけの一つとなったからです。初めて当コンクールを見た私は、こけしという木人形の魅力にひかれ、自分も作ってみたいという気持ちになりました。まさに私にとっての原点であり目標となったのです。今回そのコンクールにおいて賞をいただくことは、大変名誉なことであり、同時に責任感をも痛感するところです。私の作るこけしを通して、現代人が抱える心の疲れや悩みをいやし、安らぎを与え、元氣になつてもらえることができれば幸いです。